



# 学校便り

<http://www.katsushika-sh.metro.tokyo.jp>


## 「備えよ常に（そなえよつねに）」

校長 村山 大介

新学期を迎え早いもので1ヶ月が経とうとしています。酷暑の続いた夏がまるで遠い昔のように思われ、朝夕秋の気配を感じる時季となりました。新型コロナウイルス感染症も日々の新規感染者が1万人を前後している状況です。このような状況を鑑み、9月29日(木)から1泊で計画していた1学年移動教室は、生徒の健康と安全を守ることを優先し中止の判断をさせていただきました。代替の行事につきましては現在検討しております。決まりましたら改めてお知らせします。

今から99年前の大正12年9月1日午前11時58分に首都圏を中心とする南関東から東海地域に及ぶ広範な地域に被害を及ぼした「関東大震災」がありました。マグニチュード7.9と推定される巨大地震により、死者105,385名、家屋の被害293,387件という被害が発生しました。大きな揺れを伴う地震による家屋の倒壊、また地震の発生時刻が正午前で昼食の準備をするために火を使用していたことにより、この火が火災を起こし甚大な被害をもたらしました。JR両国駅から程近い都立横網町公園に東京都慰霊堂があります。この慰霊堂は関東大震災や東京大空襲で犠牲になった方々を慰霊する施設です。毎年9月1日に慰霊行事があり、私が子供のころは家族とともに訪れたものです。慰霊堂の中には関東大震災の当時の状況を描いた大きな絵画が複数展示されていて、その絵画を観て子供心に大地震の恐ろしさを感じたものです。遠い昔の話のように思われますが、このような大きな地震はいつ起こっても不思議ではありません。東京地方は今後30年間で地震の発生確率が70パーセントと言われています。「備えよ常に(そなえよつねに)」という言葉があります。これは、いつ、何があっても、対処できるよう日頃から備えておくという意味です。学校では毎月テーマを決めて避難訓練に取り組んでいます。7月には宿泊防災訓練を行いました。これらは日頃の備えの一つです。御家庭でも大きな地震が起きた時の非常食糧、避難場所、避難方法など確認してみたいかがでしょう。引き続き教育活動への御理解、御協力をどうぞよろしくお願いいたします。



## 作業学習を社会参加のスタートに

教務主任 渡辺 浩子

今年の夏休みに、食品加工班の生徒が代表で、第46回全国高等学校総合文化祭特別支援学校部門に参加し、江戸川区総合文化センターにおいて販売を行いました。会場では箏曲の発表が行われており、全国から応援や観覧に訪れていました。その方々がお店のお客様となり、売り込みから精算まで生徒が行っている様子を見て感心し声を掛けてくださる方もいました。また、暑い中、本校の生徒や保護者の皆様も応援に来ていただき、午前中で完売することができました。販売に参加した生徒は、仲間と一緒に作ったショートブレッドが売れるのか心配していたため、「全部売れて良かった！」と責任を果たした達成感を味わっていました。



今後は、駅前の「おーぷんはうすかなまち」や学校の近隣校での販売を予定しています。また、リサイクル班では、雨の日もレインコートを着て回収へ行くなど、一年中、学校の近隣のペットボトルや空き缶の回収作業を続けています。御紹介した様子は一部ですが、今後も作業学習では、社会との接点を多くもち、働く喜びを経験できるように取り組んで参ります。

学校便りは音声でも確認できます。



学校便りは配布時期と学校サイト掲載日がずれる場合があります。